

講評

10月5日（日）に実施された、令和7年度の「1級土木施工管理技士 第二次検定」の全体的な難易度は**例年通りの難易度**でした。

必須問題は前年の問題に比べてやや易しい問題でしたが、新しく出題された問題もあり、必須問題で満点を取ることは非常に難しいものでした。

今年度の試験で合格するためには、2次検定の過去問15年分の過去問の意味を理解して徹底的に解き続ける必要があると感じた試験でした。

私がもし受験していたら、選択問題(穴埋め)は**問題4**と**問題7**。選択問題(記述)は**問題8**と**問題10**でした。

問題1 やや難しい

工事概要については前年と変わりありませんでした。

設問1は**品質管理**で、令和5年と同様の内容でした。

(1)では現場の具体的状況と技術的課題そして検討項目。(2)では、対応処置とその評価が出題され、出題形式は前年と変わりのないものでした。

設問2の環境対策は過去17年で1度も出題されたことのない内容でした。

この問題こそ、経験記述の丸暗記防止を対策したものでした。

環境保全の問題は、令和2年と令和6年に選択問題で出題されました。環境に関する内容は、近年非常に出題傾向が高いです。また、建設副産物対策については令和3年以降出題されておりましたが、経験記述で出題されたため、今後も出題される可能性は高そうです。

問題2 難しい

労働基準監督署長への届出の問題は、型枠支保工に関する問題のみ、2次検定の過去問からの出題となりました。高さが10m以上の足場については、1次検定の応用能力問題で問われていた内容でした。それ以外は近年見ない新規問題です。

2次検定から受験された方は非常に難しかったと思います。

問題3 易しい

墜落等による危険防止措置の問題は、平成29年 問題10の類似問題であったため、過去問をしっかりと復習しておけば解けた問題でした。

問題4 やや易しい

軟弱地盤上の盛土の施工は令和元年 問題2の類似問題でした。(4)のみ新規出題であったため、過去問を復習しておけば、4問は解けた問題でした。

問題 5 やや難しい

鉄筋の加工・組立に関する品質管理と検査は、2 次検定で出題された過去問の令和元年 問題 3 と平成 26 年 問題 4 設問 1 が混じった問題でした。しかし、(1) と (2) は新規問題であったため、2 次検定の過去問だけで対策した場合は、(3) ～ (5) の 3 問が解けた問題でした。

問題 6 やや易しい

地下埋設に近接した箇所の具体的な対策の問題は、令和 4 年 問題 2 と平成 20 年 問題 4 設問 1 が混じった問題であり、土木工事安全施工技術指針からの出題でした。

埋設物に関する問題は近年、出題傾向が増えていたため対策をしていた方は 3 問～4 問は解答できたのではないかと思います。

問題 7 易しい

施工計画作成時に留意すべき事項の穴埋め問題は、令和 2 年以来の問題で、平成 29 年問題 6 の類似問題であり、土木工事安全施工技術指針からの出題でした。。近年では、施工計画が非常に多く出題されているため、過去問をしっかりと解いていた方は、4 問は解けた問題でした。

問題 8 易しい

コンクリートの打継目の記述形式の問題は、平成 30 年 問題 8 と類似の問題であったため、この過去問を対策していた方は、高得点が狙えた問題でした。

問題 9 易しい

情報化施工の問題は、「TS・GNSS を用いた盛土の締固め管理要領」から出題されるもので、近年、出題傾向が増しています。しかし、過去問と被らない選択肢があることから、過去問の対策を行っても解きづらい問題であったため、選択しなくてよい問題でした。

問題 10 普通

車両系機械による掘削又は積込み作業の労働災害防止対策に関する問題は、令和 2 年 問題 10 の類似問題でした。類似の絵は平成 20 年 問題 5 設問 2 に似た問題でした。絵を見て 5 つ解答しなければならないため、難易度は上がりますが、過去問から出題されている内容であるため、車両系機械についての過去問対策を行っていた方は、高得点が狙えた問題でした。

問題 1 1 やや易しい

工程管理の問題は、令和 5 年のプレキャストボックスカルバートの問題以来で、プレキャスト L 型擁壁の問題は、平成 26 年 問題 6 設問 2 と類似のものでした。床掘工、据付工、埋戻し工の穴埋めに関する問題は頻出ですのでしっかりと工程管理に関する過去問対策を行っていた方は、高得点が狙えた問題でした。

↓ 参考解答

・ 必須

問題 2

(イ) 10 (ロ) 構造 (ハ) 組立図 (ニ) 3.5 (ホ) 通路

厚生労働省 建設工事計画届のポイントより

問題 3

・ 高さ 2 m 以上で墜落の危険のあるときは作業床を設置する。(労働安全衛生規則 第 518 条)

・ 高さ 2 m 以上の作業床の端部、開口部等で労働者に危険を及ぼすおそれのある箇所には、囲い、手摺、覆いを設ける。(労働安全衛生規則 第 519 条)

・ 高さ 2 m 以上の場所で作業を行う場合、労働者に要求性能墜落制止用器具を取り付けるために設備を設ける。(労働安全衛生規則 第 520 条)

・ 事業者は、高さが 2 m 以上の箇所で作業を行う場合において、強風、大雨、大雪等の悪天候のため、当該作業の実施について危険が予想されるときは、作業に労働者を従事させない。(労働安全衛生規則 第 522 条)

・ 事業者は、高さが 2 m 以上の箇所で作業を行うときは、当該作業を安全に行うため必要な照度を保持する。(労働安全衛生規則 第 523 条)

・ 高さ又は深さが 1.5m を超える箇所で作業を行うときは、労働者が安全に昇降するための昇降設備を設ける。(労働安全衛生規則 第 526 条)

・ 選択 (穴埋め)

問題 4

(イ) 横断 (ロ) 浸透 (ハ) 側方 (ニ) 腹付け (ホ) 動態観測

道路土工 軟弱地盤対策工指針より

問題 5

(イ) BIM/CIM (ロ) 熱 (ハ) かぶり (ニ) 防錆 (ホ) 超音波

2023年度制定 コンクリート標準示方書 施工編より

問題6

(イ) 台帳 (ロ) 試掘 (ハ) 表示板 (ニ) 立会 (ホ) 防護

土木工事安全施工技術指針より

問題7

(イ) 事前 (ロ) 協議 (ハ) 制約 (ニ) 第三者 (ホ) 指揮命令

土木工事安全施工技術指針より

・選択(記述)

問題8

① 打継目の位置を決める際の留意点

- ・できるだけせん断力の小さい位置に設け、打継面を部材の圧縮力の作用方向と直交させる。
- ・床組みにおける打継目は梁又はスラブのスパン中央部付近に設ける。
- ・床組みと一体化になった柱または壁の打継目は、床組みとの境の付近に設ける。

② 水平打継目の処理の留意点

- ・コンクリート表面に、高圧空気や高圧水などを吹き付けて薄層を除去し、粗骨材を露出させる。
- ・ワイヤブラシを用いてレイタンス等を除去し、表面を粗にする。
- ・打継部表面は、散水等により湿潤状態とする。

問題9

① 試験施工

- ・使用予定材料の種類毎に事前に試験施工を行い、施工仕様(まき出し厚、締固め回数等)を決定する。
- ・試験施工を実施するヤードの設定は、試験方法、盛土材の土質、転圧に使用する機械の寸法等を考慮して、適切な幅と長さで設定する。

② 盛土の材料の品質

- ・事前の土質試験や試験施工で品質・施工仕様を確認したものと同一土質であることを確認する。
- ・盛土に使用する材料の含水比が、所定の締固め度が得られる含水比の範囲内であることを

確認する。

③ 材料のまき出し

・盛土施工範囲の全面にわたって、試験施工で決定したまき出し厚以下となるようにまき出し作業を実施する。

④ 締固め

・車載パソコンのモニタに表示される締固め回数分布図において、施工範囲の管理ブロックの全てが、規定回数だけ締固めたことを示す色になるまで締固める。
・過転圧が懸念される土質は、過転圧となる締固め回数を超えて締固めないよう、車載モニタに表示される締固め回数分布図で警告するような設定を施す。

問題 10

- ・適正な制限速度を定めて作業を行う。(労働安全衛生規則 第 156 条)
- ・車両系建設機械の運転について誘導者を置くときは、一定の合図を定め、誘導者に当該合図を行わせる。(労働安全衛生規則 第 159 条)
- ・運転中の車両系建設機械に接触することにより労働者に危険が生ずるおそれのある箇所に、労働者を立ち入らせない。(労働安全衛生規則 第 158 条)
- ・車両系建設機械の転倒又は転落により労働者に危険が生ずるおそれのあるときは、誘導者を配置し、その者に当該車両系建設機械を誘導させる。(労働安全衛生規則 第 157 条 第 2 項)
- ・車両系建設機械の運転者が運転位置から離れるときは、運転者にバケット、ジッパー等の作業装置を地上に下ろさせる。(労働安全衛生規則 第 160 条 第 1 項第 1 号)
- ・地山の掘削及び土止め支保工作業主任者技能講習を修了した者のうちから、地山の掘削作業主任者を選任する。(労働安全衛生規則 第 359 条)
- ・運搬機械、掘削機械及び積込機械の運行の経路並びにこれらの機械の土石の積卸し場所への出入の方法を定めて、これを関係労働者に周知させる。(労働安全衛生規則 第 364 条)
- ・物体の飛来又は落下による労働者の危険を防止するため、作業に従事する労働者に保護帽を着用させる。(労働安全衛生規則 第 366 条)
- ・当該作業を安全に行うために必要な照度を保持する。(労働安全衛生規則 第 367 条)

問題 11

① 床掘工

- ・仕上がり面は、地山を乱さず、不陸を生じさせないようなるべく平滑に施工する。

② プレキャスト擁壁据付け工

縦断勾配が3%を超える場合は底面部を水平施工とする。

③ 埋戻し工

- ・構造物の縁部は、タンパなどの小型の機械を用いて入念に締固める。